

平成22年度学校評価報告書

本校の本年度の重点目標は、「み」「や」「こ」「だ」に合わせ、以下のように設定した。

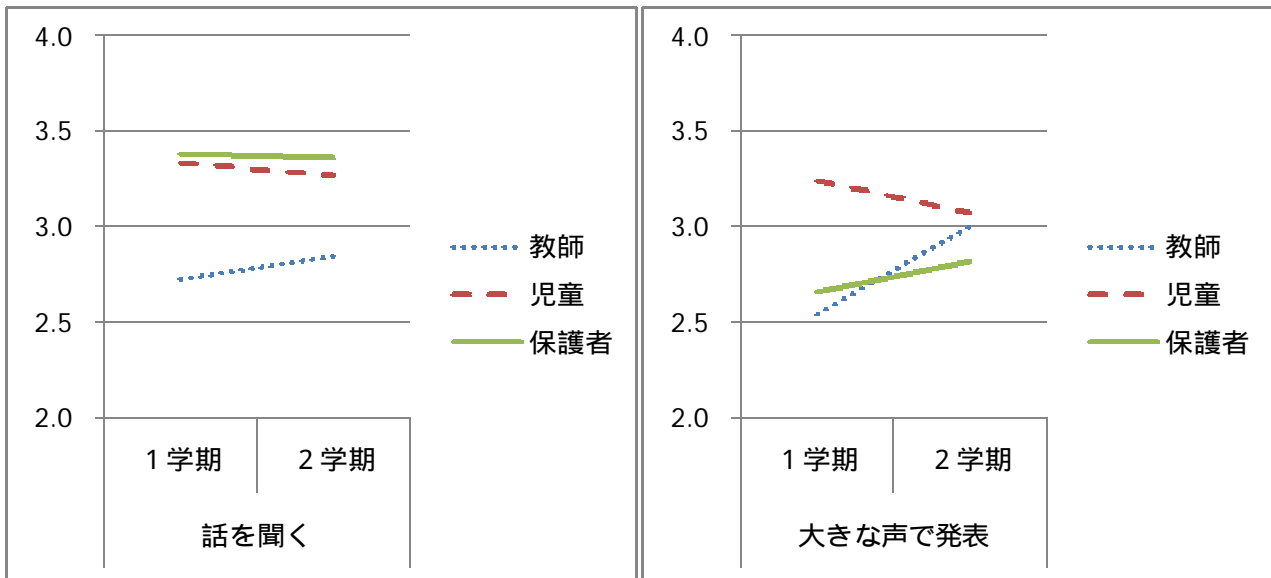
「み」未来に向かって	知	願いをもって学習する子 人の話が聴ける子 大きな声で考えを伝えられる子
「や」やり抜く力	体	体を鍛える子 外で元気よく活動する子 好き嫌いなく食べる子
「こ」心優しく	徳	自分も周りも大切にする子 思いやりのある言葉遣いができる子 ヘルメットをかぶり、安全に登下校する子
「だ」大好き都田	愛	学校や地域を愛する子 明るい元気なあいさつや返事ができる子 黙って一生懸命掃除ができる子

これら、4つの力（知・体・徳・愛）を総合的に身に付けることで、学校教育目標「心豊かに生き生きと活動する子」の育成が達成できると考え取り組んできた。

そこで、それぞれ4つの力について評価を示す。

知 願いをもって学習する子

1 自己評価の結果



2 考察

聴くことに対しては、意識が高まっていることはうれしく思う。しかし、「聴く」ということは、静かに座って話す人の方を見るという外見だけで、できたとは言えない。本当に話した内容が理解できているか、共感できているかといったことを考えると、教師の評価が低くなってしまう。

一方、発表については地域特有というか、声に出さなくても言わんとすることは伝わるものだという意識が抜けきらない。また、小グループ内での意見交換、あるいは台本などが準備されている発表であれば活発に行えるものの、全体の場に立つと尻込んでしまったり、声が小さくなってしまったりすることがまだ見られる。しかし、経験を積ませることで改善が見られていると保護者も教師も前向きにとらえている。

3 学校関係者評価（ご意見）

低学年は元気がよく、大きな声で発表ができていた。

昨年より落ち着いた雰囲気での学習ができていて、話もきちんと聴けていた。

高学年になると、徐々に意見を言えなくなるのは、普通かもしれないが、進んで言えるようにしたい。

授業に集中していて、姿勢もよくなっている。まだ、いすを傾けて座っている子が何人か見られたので、注意したい。

4 改善方策

授業はもちろん、集会や朝・帰りの会等で、感想発表の場を数多く設け、経験を積ませる。

音読発表や外部講師を招いて発声練習・音読練習をする。

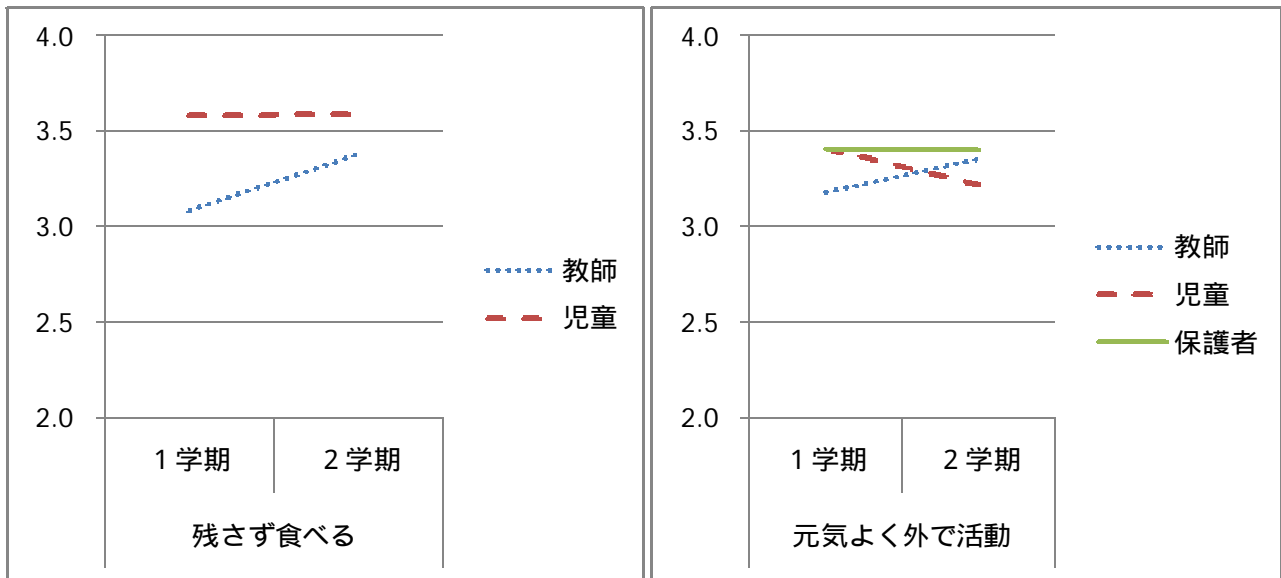
校内研修を通して話型を提示することで意見や感想を発表するマニュアルを身に付けさせ。

発表しやすい学級や学校の雰囲気作りを一層進める。

学年の発達段階に応じた聴き方、発表の仕方について研修を進める。

体を鍛える子

1 自己評価の結果



2 考察

「残菜ゼロ」が本校の給食の自慢であり、偏食がひどい子ども、頑張って徐々に食べることができるようになってきている。栄養については、食育講座を設けるだけでなく、浜松大学との提携により栄養学部の学生さんによるお話を全学年にさせていただくなどの取り組みもしているので、意識は高いと思われる。

外での活動については、異学年交流が積極的に行われ、鬼遊びやサッカーなどは様々な学年が混じり合って楽しく活動している。しかし、高学年になると、少ない人数で委員会の常時活動や、各種主会等の準備など、休み時間が自由に活動できなくなってしまうという実態も起きている。このことが、主に、高学年の評価を下げていると考える。

3 学校関係者評価（ご意見）

とてもよい結果である。問題はないと思われる。

外遊びの「3間」が失われつつあると聞いている。子どもたちの活動（遊び）の時間をできる限り確保してあげたい。

4 改善方策

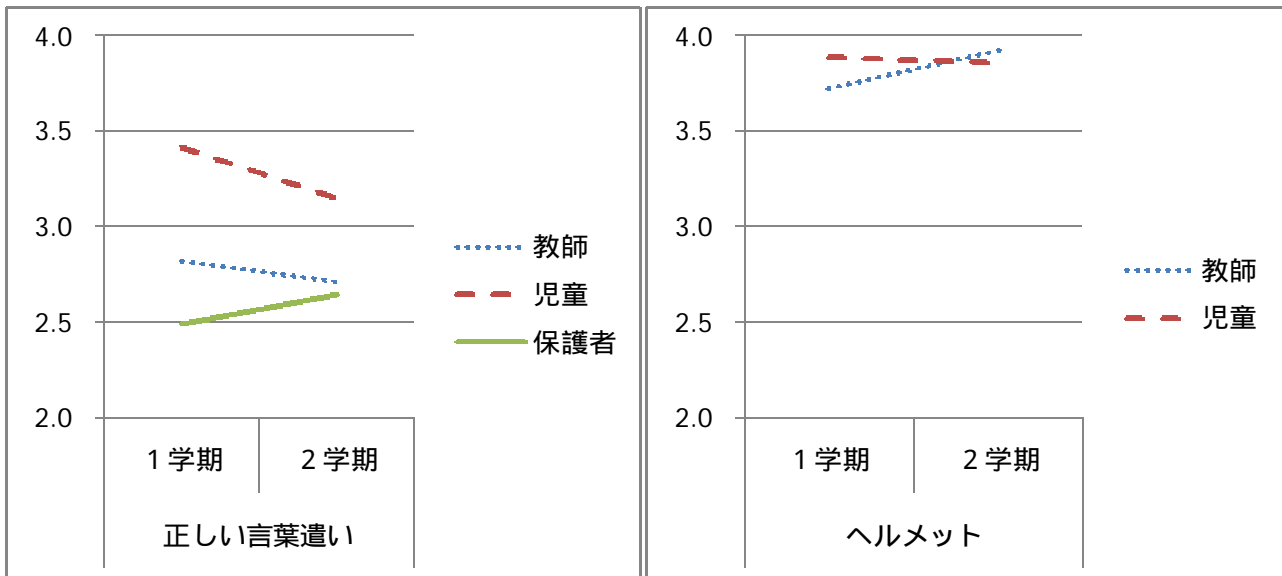
食育については、保護者の方に学校給食を参観・試食してもらうことにより、更に理解を深めていただくことにより、家庭を巻き込んだ活動としていく。

体育科で扱った運動が子どもたちの遊びの中に生きてくる姿が見られるので、様々な動きを楽しく身に付ける上でも、体育科の授業の重実を一層図る。

委員会主催の運動イベントを、行事等に合わせ計画的に企画運営できるよう、声掛けをする。

徳 自分も周りも大切にする子

1 自己評価の結果



2 考察

本年度は、昨年度の反省に基づき、言葉遣いについては年度当初各学級において、周りを気持ちよくさせる言葉、いやな気持ちにさせる言葉を話し合い、背面掲示板に全学級掲示し、意識付けを図った。しかし、振り返る機会を意図的に設定できかねたこともあり、徐々に意識が薄れてしまった感は否めず、アンケート結果にも表れたと反省している。

交通事故ゼロに関しては、毎週水曜日の集団下校の際、交通担当が講話をすることで、意識を高めている。一昨年、交通事故が起きてしまったが、それを教訓とすることで、ここ2年間は無事故が続いていることが高い評価につながっていると考えます。

3 学校関係者評価（ご意見）

言葉遣いはこれまでの環境に大きく左右される。まずは、我々を含め、大人が範となる言葉遣いを心掛けたい。

交通安全に付いては高い意識を今後ももって、無事故を続けて欲しい。

4 改善方策

PTA 総会やPTA 理事会、懇談会などを通じて保護者への呼び掛けを行う。

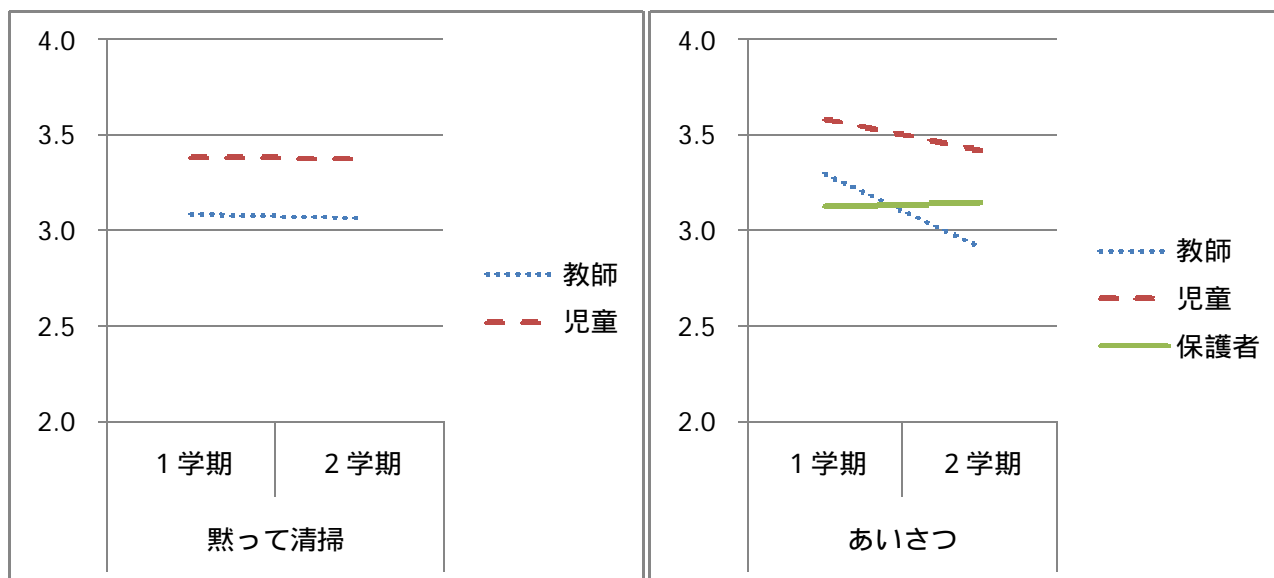
時と場、相手に応じた言葉遣いができるようにということで、敬語の指導に力を入れる。

小規模校で、みんな身近な間柄という感覚から、大人相手でも友達感覚で話し掛けてしまうという点を見直す。

子どもが熱くなったとき、教師も一緒に熱くならないという心の余裕をもつ。

愛 学校や地域を愛する子

1 自己評価の結果



2 考察

学年当初に比べ、非常に静かに清掃ができるようになった。毎月清掃班長会を行い、よい子、注意する子を一覧にして担当が配布し、清掃場所担当者と担任からそれぞれ指導をするという対応がよいと考える。

あいさつは1学期には運営委員会を中心にあいさつ運動を行い、2学期前半に浜松地区の倫理委員会の方々が1か月間あいさつ運動をしてくださった。それらの間は大変盛り上がったが、2学期末には徐々に下火になってしまったという現状が表れている。声掛けはしているが、定期的にてこ入れをしないと定着しない。

3 学校関係者評価（ご意見）

花が多く、とても明るいきれいな学校である。

河西碑・都田駅の清掃も表彰され、清掃に対する意識が高いことをうれしく思う。

あいさつをする子が多くて気持ちがいい。

家庭での声掛けも子どもたちの日常化に欠かせない。

4 改善方策等

毎学期、運営委員会を中心にしたあいさつ運動を展開する。

学校だより等で家庭へ呼び掛けを一層行う。

全体を通じて（学校評議員の助言より考察）

1学期より2学期の数値が下がることをあまり気にしない方がよい。負の記憶は、どうしても積み重なってしまうものである。下がる方がむしろ自然である。

全体の傾向を知ることはとても大切である。しかし、本当は保護者の評価と子どもの評価に食い違いがある家庭とか、「あいさつ」の評価が高い子は「言葉遣い」の評価も高いといった、項目ごとの関連性を統計的に見ることができると、保護者への説得力が増すと思われる。

そう言った意味で、この評価のとらえ方と、利用方法をもっと効果的なものにしたい。

小規模校ならではの丁寧な教育がきちんとできていると思うし、今後もそんな学校で有り続けて欲しい。